

I	A キ	B ア	C ウ	D イ	E セ	F ク	G ケ	H オ	I ス	J コ	各2点														
II	1 株主		2 株主総会		3 配当(利益配当)		4 証券取引所			5 株価															
	6 株主の責任は有限責任であり、出資した金額は返ってこ ないが、それ以上の責任は負わない。(株式を買った時点で責任を果たしている。)																								
	7 上がる		8 CSR		9 ア																				
	10 公害の発生で、企業には利潤追求だけではなく 社会的役割があると考えられるようになったから。																								
III	① 賃金			② 社会参加			③ 労働力			④ 商品															
	⑤ 労働条件			⑥ 労働契約			⑦ 労働組合			⑧ 労働基準法															
	⑨ 過労死			⑩ 労働災害																					
IV	1① 年功序列賃金			② 終身雇用制			2 ウ	3 ウ	4 イ	5 イ	6 ア														
V	1① 需要曲線			② 供給曲線			2 均衡価格			3 A															
	4 独占価格			5 独占禁止法																					
VI	【採点基準】次の各論点について、社会の現状や友だちの意見に対して、効 率と公正の2観点から検討し、自分の意見を説明する文章を書くことができ ている場合に、各々2点を加点する(満点は10点)。矛盾する記述は、0点。 ① 利潤の配分金額の合計が2000万円になっていること。 ② 利益配分を受ける主体は、会社・株主・従業員の3者である。利潤の効 率的な配分と、3者が公平に利益を得ることを同時に考えるべきである。 ③ 店舗の新設、新商品の開発、ケーキ教室の開催、翌年への積み立ては、いずれも会社の維持と発展のための投資であり、 会社経営の効率の観点から優先される内容である。会社が維持・発展しなければ株主や従業員の利益も生まれない。しか し、公正の観点からは、株主への配当や従業員の賃金を低いままでして、会社の利益だけを優先することは不公正である。 ④ 利潤がある場合、株主には配当を受ける権利があり、社長は株主総会で利潤の配分方法を説明する責任を負っている。 ⑤ 社会貢献をしつつ会社の維持と発展のために資金を確保する、利益配当を増額し株主の投資への意欲を増やす、賃金の 増額で従業員のやる気を高める、効率と公正を満たすよう全体のバランスを検討している。例えば、4:3:3の配分など。 ⑥ 経営上無理のない配当の増額は、株主の投資意欲をよび、より大きな資金を将来に得るための効率的な方法である。他 方で、がんばって会社の利潤を生み出している従業員が得るべき報酬との公正さをどのように実現するかが課題になる。 ⑦ 従業員の賃金の増額を検討する場合は、正社員と契約社員の賃金格差をどのように扱うのかが課題になる。会社の維持 や発展は、従業員の努力や仕事内容に支えられていることは効率的な観点である。さらに、契約社員の賃金が低く設定さ れているのも企業側の効率的な理由からである。しかし、正社員と契約社員が同じ仕事内容なら同一賃金が公正である。 ⑧ ケーキ教室の開催は、地域貢献として企業の社会的役割を果たす意味もあるが、企業イメージの向上につながるPRに もなる利潤の効率的な活用方法である。また、消費者にも有益な教育機会であり利潤の公正な活用方法だとも考えられる。																								
	「利潤の配分表」																								
	<table><tr><th>項 目</th><th>配分する金額</th></tr><tr><td>A 店舗の新設</td><td>円</td></tr><tr><td>B 新商品の開発</td><td>円</td></tr><tr><td>C 従業員の賃金の増額</td><td>円</td></tr><tr><td>D 株主への利益配当</td><td>円</td></tr><tr><td>E 子ども向けのケーキ教室の開催</td><td>円</td></tr><tr><td>F 翌年への積み立て</td><td>円</td></tr></table>											項 目	配分する金額	A 店舗の新設	円	B 新商品の開発	円	C 従業員の賃金の増額	円	D 株主への利益配当	円	E 子ども向けのケーキ教室の開催	円	F 翌年への積み立て	円
	項 目	配分する金額																							
	A 店舗の新設	円																							
	B 新商品の開発	円																							
	C 従業員の賃金の増額	円																							
	D 株主への利益配当	円																							
	E 子ども向けのケーキ教室の開催	円																							
	F 翌年への積み立て	円																							

第 学年 組 番 氏名 満点 太郎

I 知識・理解	II 知識・理解	III 知識・理解	IV 思考力・判断力	V 資料活用技能	VI 主体的に学ぶ態度	合 計
/20	/24	/20	/14	/12	/10	/100